

トップ

朝刊・夕刊

LIVE

Myニュース

日本の介護に新たな助っ人 ミャンマー、語学×実技育む グローバルウオッチ

[ミャンマーコーディネーター](#)[フォローする](#)

2024年6月26日 11:00 [会員限定記事]

保存済み



ミャンマー・ユニティでは初心者も実地と同様の設備で訓練を積む（10日、ヤンゴン）

日本の介護の現場でミャンマー人材の存在感が高まってきた。政情不安による出稼ぎ志向と日本の人手不足が背景にあり、本国では渡航前の講習が熱を帯びる。日本語学習に介護の実技を組み合わせ、方言や地方文化を学ぶクラスも登場した。

「足を上げてもいいですか。膝の下に手を入れますね」。ベッドに横たわる老人役の生徒に、受講2日目でまだぎこちない様子のジンジンモーさん（25）が日本語で話しかける。

最大都市ヤンゴンにある日系の人材送り出し機関、ミャンマー・ユニティ併設の教室には、日本と同じ仕様のベッドやおむつ、液体せっけんがずらり。シーツ交換や足洗



いを現場さながらに学べる。



ミャンマー・ユニティの足浴講習（10日、ヤンゴン）

介護福祉士の日本人と介護職員レベルのミャンマー人が指導にあたる。日本にいる介護人材向けにも、ミャンマー語と日本語のライブ動画による介護福祉士の試験対策講座を近く始める。

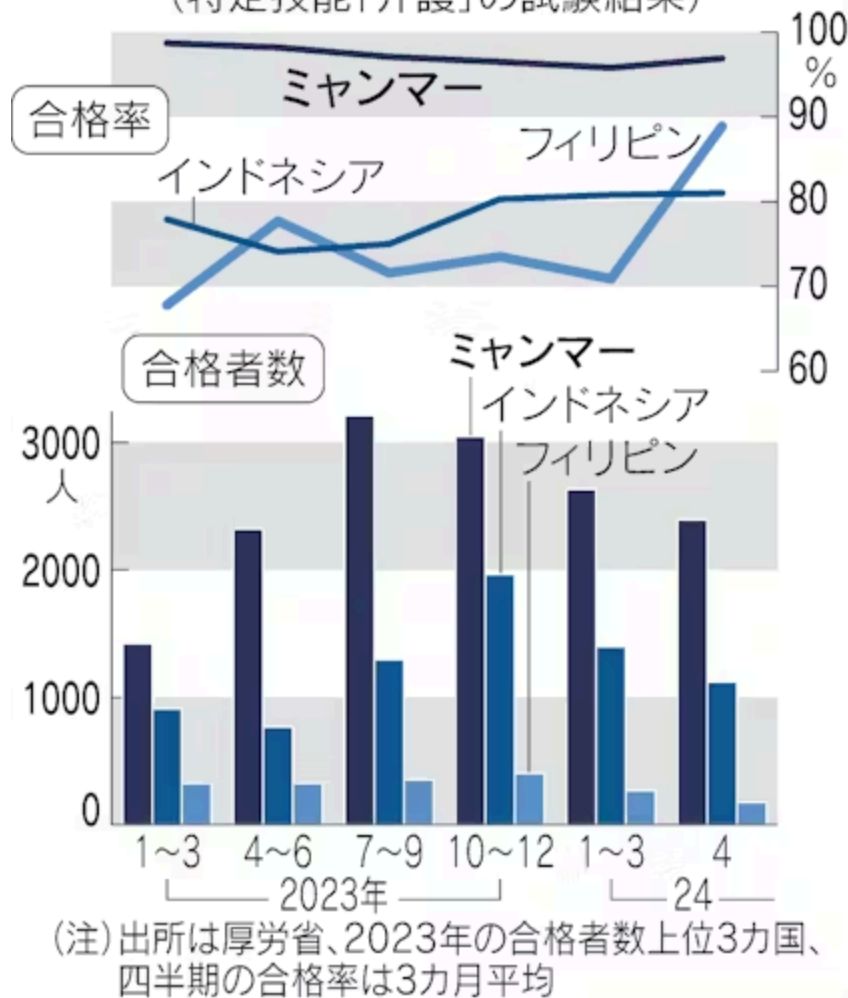
技能実習の資格で日本に住むミャンマー人は2023年末時点で約2万6千人、特定技能は1万2千人。それぞれ国・地域別で5位につけ、先行するインドネシアやフィリピンとの差を縮めてきた。

ミャンマーでは21年2月のクーデター以降、政治経済が混乱し、若者の海外就労の意欲が高まった。最近では国軍の徴兵が追い打ちをかける。渡航意志の固さからか、日本語や専門知識の習得が速いと人材会社に評判だ。

実際、特定技能の介護の試験結果はミャンマー人が突出している。23年の合格者数は首位の約1万人で、合格率は97%。人数は2位のインドネシア（合格率は77%）の2倍以上、3位フィリピン（同73%）の約7倍にのぼった。



ミャンマー人材への期待が高まる (特定技能「介護」の試験結果)



技能実習に介護が加わったのは17年、特定技能の創設は19年と歴史は浅い。14日には技能実習に代わる新制度「育成就労」の新設が決まった。外国人材にとって転職の自由度が高まるのがメリットだが、日本の介護施設側は人材の確保で岐路に立たされる。

こうした流れを受け、ヤンゴンでは日本語と介護を教え込む学校の設立が相次ぐ。

日本語教育・人材会社のZERO2ONE（ゼロトゥワン）は3月、介護学校を開いた。特定技能での渡日から介護福祉士の資格取得など長期視点の教育で「24年度は250人の内定をめざす」（加藤大樹社長）。

同校は日本での採用が決まった若者に5カ月の全寮制コースを用意した。共同生活を通じて介護施設における規律やチームワークを体得させる。高度な日本語に加え、渡航後に必須の「初任者研修」の内容も現地語で予習する。生徒は授業料を負担しない。





ゼロトウワン介護学校は現役看護師も講師に招く（5日、ヤンゴン）

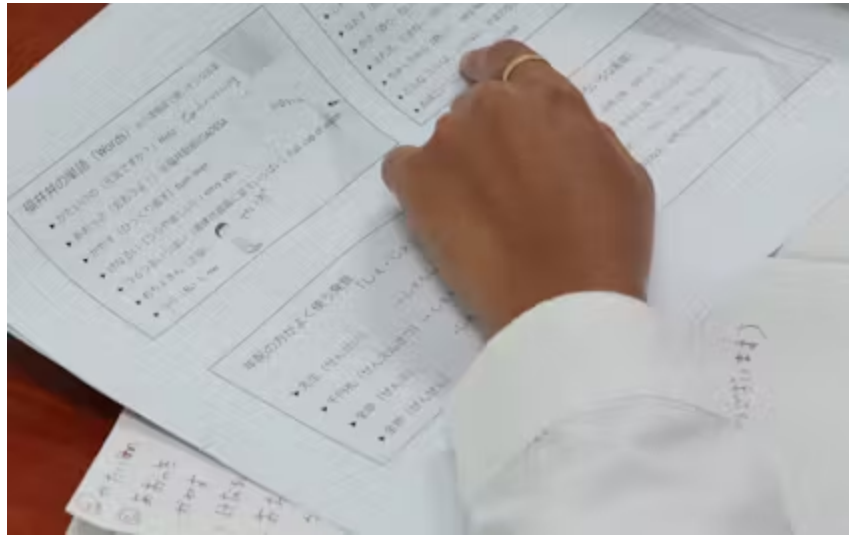
実技指導は日本ホームヘルパー協会（東京・港）の境野みね子会長らとカリキュラムを練る。厚生労働省は特定技能の外国人材による訪問介護を解禁する方針を示した。ヤンゴンの介護学校はこの分野の人材育成でも貢献しうる。日本着任後の時間を有効活用するため「（研修を効率化するなどの制度改善で）厚労省に働きかけており手応えはある」（境野氏）という。

他方、育成就労への移行や特定技能の人気の高まりにつれて、日本の地方では人材の定着難への懸念は強い。より高給、より都会の勤務先に流出する傾向があるからだ。

定着を促すための対策として、着任地の方言や習慣のカルチャーショックを抑えることも重要だ。ヤンゴンの日系人材会社ジェイサットは2月、福井県と連携し、同県行き介護人材に特化したクラスを開講した。

「はよしね」「つつるいっぱい」——。商業ビルの一室にミャンマー人の福井弁が響き渡る。「早くして」「（コップや浴槽に）あふれるほどいっぱい」という意味だ。オンラインで映し出される福井放送の男性アナウンサーによる「ネーティブ」の発音や抑揚を熱心にまねる。





ジェイサットは介護や日常生活でよく使う福井弁を伝授（7日、ヤンゴン）

進行中のクラスは17人が参加し、1回90分、計12回実施する。観光地や祭り、公共交通機関、ごみの出し方など福井特有の情報や習慣を渡日前にインプットできる。介護では珍しい男性人材のカウンカンゾーさん（22）は「東京よりものんびりした福井を好きになれそう」と話す。

厚労省は19～40年度の間には69万人の介護職員の上乗せが必要だとみる。足元では人手不足や経営者の高齢化により、介護事業者の倒産が相次ぐ。ミャンマー・ユニティ代表の北中彰氏は「日本の介護は需要増と人材不足のダブルパンチだ」と警鐘を鳴らす。

ミャンマーなどアジア人材との共生なしに、日本の介護は行き詰まる。人材定着のためには日本の高齢者もアジアを知り、働きやすい雰囲気をつくって迎える姿勢も大切だ。

（ヤンゴン=渡辺禎央）

【関連記事】

- ・ [ミャンマーから日本、流入最高潮 人もモノも政変が契機](#)
- ・ [ミャンマー人材、徴兵避け移住や国内進学 大移動の兆し](#)
- ・ [特定技能の外国人、5年で82万人に拡大 政府が閣議決定](#)
- ・ [育成就労で外国人材確保 改正法成立、技能実習に代わり](#)

保存済み

